

社団法人物理探査学会

創立60周年記念行事

日時：平成20年10月21日(火)～23日(木)

会場：タワーホール船堀（東京都江戸川区、都営新宿線 船堀駅前）

テーマ：「社会に貢献する物理探査」

■ 記念シンポジウム

日時	平成20年10月21日(火)	9:30-15:00
	10月22日(水)	9:00-12:00
	10月23日(木)	9:00-16:45
場所	タワーホール船堀	2階 瑞雲の間、平安の間
セッション	資源エネルギー、環境、放射性廃棄物地層処分、防災、維持管理、 遺跡・文化財、農業、地球科学 の8分野	

■ 学術講演会ポスターセッション

日時	平成20年10月21日(火)9:30-23日(木)13:40	
コアタイム	10月21日(火)	15:00-16:00
ポスターセッション	10月22日(水)	13:00-13:40
ポスターセッション	10月23日(木)	13:00-13:40
場所	タワーホール船堀	1階 展示ホール

■ 学生参加イベント

日時	平成20年10月21日(火)	16:00-18:00
場所	タワーホール船堀	1階 展示ホール

■ 創立60周年記念式典

日時	平成20年10月22日(水)	13:45-15:20
場所	タワーホール船堀	5階 大ホール

■ 記念講演

日時	平成20年10月22日(水)	15:45-17:45
場所	タワーホール船堀	5階 大ホール
講演者	河 口 洋 一 郎	東京大学教授、アーティスト 「探査型ロボットの芸術」
	芦 田 讓	京都大学名誉教授、EEFA 理事長 「21世紀は資源争奪の時代 —持続可能・地方分散型社会機構に向けて—」
司 会	太 田 陽 一	物理探査学会副会長

■ 祝賀会

日時	平成20年10月22日(水)	18:00-20:00
場所	タワーホール船堀	2階 平安・福寿の間

創立60周年記念シンポジウム

平成 20 年 10 月 21 日(火)シンポジウム・プログラム

第1会場(2階:瑞雲の間)		第2会場(2階:平安の間)		
9:30 ～ 12:30	「資源エネルギー(石油・天然ガス)」 座長:高橋明久(石油資源開発)・ 佐伯龍男(JOGMEC)	9:30 ～ 15:00	「維持管理」 座長:鈴木敬一(川崎地質)・ 相澤隆生(サンコーコンサルタント)	
9:30	「貯留層モデルの構築のための地震探査データの高分解能化処理」 伴 英明(国際石油開発帝石)	9:30	「道路法面管理と物理探査」 山本 剛*(国土交通省近畿地方整備局)・ 満下淳二(道路保全技術センター)・楠見晴重(関西大学)・ 小山倫史・松岡俊文・大西有三(京都大学)	
10:00	「Azimuthal VSP を用いた中東炭酸塩岩油田における異方性解析」 萩原 洋*(JODCO)・井川 秀雅・Gary Mercado (ADMA-OPCO)・古屋 敬一 (ZADCO)・William Borland・ Shujaat Ali (Schlumberger)	9:55	「地すべり調査における物理探査の役割と期待」 福岡 浩(京都大学防災研究所)	
10:30	「油・ガス探査における Elastic Inversion を用いた貯留岩性状の予測」 中東秀樹*・井上久隆・柳内康成(三菱商事石油開発)	10:20	質疑応答	
11:00	「油層モニタリングのためのタイムラプス震探データ定量評価の試み」 常山 太(出光オイルアンドガス開発)	10:25	「河川堤防安全性評価への統合物理探査の利用」 稲崎富士*(土木研究所)・河川堤防の統合物理探査適用検討委員会(物理探査学会)	
11:30	「マルチアトリビュート解析を用いたオイルサンド貯留層の評価」 高橋明久*・柏原功治(石油資源開発)	10:50	「河川堤防調査における物理探査の適用性に関する研究 - 国土交通省近畿技術事務所 河川堤防の内部構造調査と探査機器の開発研究の成果 -」 山本 剛・小段栄一・糸川政孝(国土交通省近畿地方整備局近畿技術事務所)・京都大学 河川堤防の内部構造調査と探査機器の開発研究委員会(委員長: 芦田 讓)	
12:00	「高密度速度解析データを用いたメタンハイドレート濃集帯の抽出技術」 稲盛隆穂*・佐伯龍男(JOGMEC)	11:15	質疑応答	
12:30	昼 食		11:20	休憩
13:30 ～ 15:00	「資源エネルギー(金属・地熱)」 座長:荒井英一(JOGMEC)・ 高橋武春(日鉄鉱業)	13:30～ 15:00	「維持管理(つづき)」 座長:鈴木敬一(川崎地質)・ 相澤隆生(サンコーコンサルタント)	
13:30	「金属資源探査への物理探査の適用事例」 荒井英一*・片山弘行・増田一夫(JOGMEC)	13:30	「大阪ガスの埋設管探査技術について」 綱崎 勝(大阪ガス)	
14:00	「ウラン探査における物理探査」 茂田直孝(原子力機構)	13:55	「埋設管の非開削探査」 須藤佳一(アイレック技建)	
14:30	「地熱資源のための物理探査」 大里和己(GERD)	14:20	「道路・港湾施設の予防保全における地中レーダ技術の活用の変遷と成果」 雑賀正嗣*・太田雅彦・ ウィルヘルム P. J. ヴァンデルメア(ジオ・サーチ)	
		14:45	質疑応答、総括	
15:00 ～ 16:00	第 119 回学術講演会ポスターセッション・コアタイム		1階 展示ホール	
16:00 ～ 18:00	学生参加イベント 第1部: アイデア・コンペティションは発表会 第2部: チャレンジ・ジオクイズ結果発表		1階 展示ホール	

平成 20 年 10 月 22 日(水)シンポジウム・プログラム

第1会場(2階:瑞雲の間)		第2会場(2階:平安の間)	
9:00 ～ 12:00	「農業」 座長:森 丈久(農研機構) 黒田清一郎(農研機構)	9:00 ～ 12:00	「防災」 座長:山中浩明(東京工業大学)
9:00	開会:竹内睦雄	9:00	「物理探査を地域の「減災」に生かす仕組み」 齋藤徳美*・山本英和・佐野 剛(岩手大学)
9:05	「農業水利施設のストックマネジメントの現状と非破壊調査の適用」 加藤公平(農水省利根調)	9:30	「PS 変換波を用いた S 波速度の推定」 加野直巳*・横倉隆伸・大滝壽樹(産総研)
9:30	「農業用水路壁面連続画像撮影システムの開発」 森 充広*・森 丈久・渡嘉敷勝・中矢哲郎(農研機構), 藤原鉄朗(日本工営)・齋藤 豊(ウォールナット)	9:55	「地盤の不飽和化による液状化対策工法における比抵抗モニタリング」 岡村未対*(愛媛大学)・神宮司元治(産総研)・ 今里武彦(日本地下探査)
9:55	「弾性波を利用したコンクリート系配管材の損傷同定と水密性能評価に関する研究 - 農業用配管施設における損傷実態の解明・補修効果の非破壊照査」 鈴木哲也*(日本大学)・大津政康(熊本大学)	10:20	休憩 座長:今里武彦(日本地下探査)
10:20	休憩 座長:小林 晃(京都大学)・ 黒田清一郎(農研機構)	10:30	「斜面崩壊発生場所予測の最近の進展」 千木良雅弘(京都大学防災研究所)
10:35	「高周波数の弾性波探査手法の新しい分野への適用」 榊原淳一*(JFE シビル)・毛利栄征(農研機構)・ 竹内睦雄(元 農研機構)・杉山昌夫(元 JFE シビル)	11:00	「地滑り調査における物理探査の役割と問題点」 上野将司(応用地質)
11:00	「比抵抗電気探査による老朽ため池改修効果の評価」 小林範之*・吉武美孝(愛媛大学)・松本伸介(高知大学)・ 宇佐美幸大(香川県立高松南高等学校)	11:25	「地すべり調査における物理探査の適用と事例」 菅 智浩・三木 茂*・ 中司龍明(基礎地盤コンサルタンツ)
12:25	「地下ダム開発における物理探査法の適用」 今泉眞之*(農研機構)・汪 振洋・竹内睦雄(探査環境技術)	11:50	総括:山中浩明(東京工業大学)
11:50	総括:小林 晃(京都大学)		
12:00	昼 食		
13:00	第 119 回学術講演会ポスター・セッション	1階	展示ホール
13:45	創立 60 周年 記念 式 典	5階	大ホール
15:30	休 憩		
15:45	記 念 講 演	5階	大ホール
18:00	祝 賀 会	2階	平安・福寿の間

平成 20 年 10 月 23 日(木)シンポジウム・プログラム

第1会場(2階:瑞雲の間)		第2会場(2階:平安の間)		
9:00 ～ 10:25	「放射性廃棄物地層処分」 座長: 斎藤秀樹(応用地質)	9:00 ～ 12:00	「遺跡・文化財」 座長: 西谷忠師(秋田大学)・ 田村晃一(応用地質)	
9:00	「放射性廃棄物地層処分手業の概要調査における物理探査への期待」 土 宏之(NUMO)	9:00	開会: 田村晃一	
9:25	「高レベル放射性廃棄物の地層処分における物理探査の役割と深地層の科学的研究における物理探査技術開発」 茂田直孝(原子力機構)	9:05	「日本における遺跡探査抄史」 西村 康(ACCU 奈良)	
9:50	「高レベル放射性廃棄物処分手業の概要調査段階に向けた物理探査技術高度化開発の概要」 吉村公孝(原環センター)	9:35	「GPRによる遺跡調査」 佐藤源之(東北大学)	
10:15	質疑応答	9:50	「遺跡探査と電気探査 -表面電位法の開発」 亀井宏行*・河原健一郎・本田誠彦(東京工業大学)	
10:25	休憩	10:05	休憩	
10:35	「環境: CO ₂ 地中貯留」 座長: 斎藤秀樹(応用地質)	10:15	「考古学研究者による物理探査の模索」 池田榮史(琉球大学)	
10:35	「CO ₂ 地中貯留 モニタリングの現状と戦略」 當舎利行*(産総研)・中尾信典(経産省)	10:30	「文化財保護行政と遺跡探査」 西口和彦(兵庫県立考古博物館)	
11:00	「夕張における CO ₂ -ECBM 試験概要」 藤岡昌司*(JCOAL)・山口伸次(秋田大学)・ 名子雅夫(KANSO)	10:45	「考古学研究・埋蔵文化財保護に物理探査を役立たせるために」 金田明大(奈良文化財研究所)	
11:25	「地中貯留における二酸化炭素挙動モニタリングと物理探査の役割」 薛 自求*・松岡俊文(京都大学)	11:00	「西都原古墳群における整備・活用のための物理探査」 北郷泰道(宮崎県立西都原考古博物館)	
11:50	質疑応答	11:15	質疑応答	
12:00	昼 食		11:50	総括: 西谷忠師
13:00	第 119 回学術講演会ポスター・セッション	1階 展示ホール		
第1会場(2階:瑞雲の間)		第2会場(2階:平安の間)		
13:45 ～ 16:45	「環境: 土壌・地下水」 座長: 渡辺文雄(日本物理探査)・ 松尾公一(日鉄鉱業)	13:45 ～ 16:45	「地球科学」 座長: 渡辺俊樹(名古屋大学)・ 真田佳典(JAMSTEC)	
13:45	「文献調査による環境(土壌・地下水汚染等)分野における物理探査の適用状況」 徳丸哲義*(徳丸技術士事務所)・ 松尾公一(日鉄鉱業)・松原由和(応用地質)・ 渡辺文雄(日本物理探査)	13:45	「震源断層のイメージングの現状と地震被害想定へのインパクト」 佐藤比呂志*・平田 直(東京大学)・ 阿部 進(地球科学総合研究所)	
13:55	「廃棄物処分場における漏水モニタリング技術」 小林 剛(応用地質)	14:10	「屈折法・広角反射法による地殻構造解析の総合的手法」 笠原順三*・鶴我佳代子(日本大陸棚調査)・ 久保田隆二(川崎地質)・田中智之(地科研)・村瀬 圭・ 西山英一郎(川崎地質)・田村八洲夫(日本大陸棚調査)・西澤あずさ・金田謙太郎(海上保安庁海洋情報部)	
14:25	「地層の比抵抗を用いた廃棄物埋立層の安定化を把握する試み」 香村一夫*・河村陽介・杉崎真幸(早大理工)・ 大石修・栗原正憲(千葉環境研)	14:35	「Seismic Oceanography - 反射法を用いた海洋微細構造調査」 中村恭之*(東京大学海洋研)・野口尚史・辻 健(京都大学)・伊藤幸彦・新野 宏(東京大学海洋研)	
14:55	休憩	15:00	休憩	
15:05	「水循環プロセス把握ツールとしての物理探査への期待」 嶋田 純(熊本大学)	15:15	「深海底鉱物資源探査の現状と物理探査の適用について」 大岡 隆(JOGMEC)	
15:35	「地下水観測における自然電位法の適用」 石戸経士(産総研)	15:40	「科学掘削と物理探査、そしてその未来」 倉本真一*・真田佳典(海洋研究開発機構)	
16:05	「人道的地雷除去のための地雷検知ならびに不発弾検知技術」 佐藤源之(東北大学)	16:05	「月探査の現状と将来展望」 加藤 學*・滝澤悦貞・佐々木 進(宇宙航空研究開発機構)	
16:35	総括: 松尾公一(日鉄鉱業)	16:30	質疑応答・総括	

社団法人物理探査学会

第 119 回(平成 20 年度秋季)学術講演会

会 期 平成 20 年 10 月 21 日(火)、22 日(水)、23 日(木)
会 場 タワーホール船堀 1階 展示ホール
[東京都江戸川区船堀 4-1-1, 都営新宿線 船堀駅前]
[会場受付 電話:090-7214-7500(学会携帯)]

10 月 21 日(火)

一般講演(ポスターセッションコアタイム) 1階 展示ホール 15:00~16:00
記念行事(記念シンポジウム, 学生参加イベント) 9:30~18:00

10 月 22 日(水)

一般講演(ポスターセッション) 1階 展示ホール 13:00~13:40
記念行事(記念シンポジウム, 記念式典, 記念講演, 祝賀会) 9:00~20:00

10 月 23 日(木)

一般講演(ポスターセッション) 1階 展示ホール 13:00~13:40
記念行事(記念シンポジウム) 9:00~16:45

企業展示 10 月 21 日(火)9:30 ~ 23 日(木)14:00 1階 展示ホール

[注意]

第 119 回学術講演会は、創立 60 周年記念行事と同時に開催し、一般講演の発表形態は全てポスターです。

第 119 回学術講演会プログラム

「防災・地震・土木」 座長 中村 真(ニュージェック)

P-1) 波動方程式を用いた津波シミュレーション

○越智 公昭・三ヶ田 均・尾西 恭亮(京大院・工)

P-2) 福岡平野西部の文教施設周辺部での微動アレイ探査

○山田 伸之(福岡教育大)

P-3) 常時微動の H/V スペクトル比と地形・地盤分類を用いた スペクトル増幅率の推定

○先名 重樹(防災科学技術研究所), 翠川 三郎(東京工業大学), 若松 加寿江(関東学院大学)

P-4) 高田平野における微動アレイ探査

○宮腰 研(地盤研究財団), 凌 群(ジオアナリシス), 岡崎 敦(関西電力)

P-5) 福岡市中央区での表層地盤の微動探査

○山田 伸之(福岡教育大), 山中 浩明・元木 健太郎・大石 真梨子(東京工業大), 山下 葉子(福岡教育大)

P-6) 建造物の損傷事前評価における微動 H/V の適用

○澤田 義博(予知振興会), 長谷川 秀也(名高速)

P-7) 地震波干渉法理論に基づいた表面波分散曲線のデュアルモード・インバージョン

○横井 俊明(独)建築研究所国際地震工学セ)

P-8) Mj6.1 内陸地殻内地震によって大加速度を観測した K-NET(HKD020)地点での S 波速度構造の推定

○笹谷 努(北大工学研究科), 前田 宜浩(北大理学研究院), 高井 伸雄・重藤 迪子(北大工学研究科), 堀田 淳・関 克郎・野本 真吾((株)ジオテック)

P-9) 地震記録の S 波部分を用いた深部地盤の S 波速度構造モデルの推定-他種観測のデータの同時逆解析の試み-

○鈴木 晴彦(応用地質), 山中 浩明(東京工大総理工)

P-10) 加須低地・荒川低地の浅部地下構造

○山口 和雄・加野 直巳・住田 達哉・大滝 壽樹・横倉 隆伸・横田 俊之・木村 治夫(産総研)

P-11) ランドストリーマー高分解能反射法による呉羽山断層の浅部変形構造イメージング

○稲崎 富士(土木研究所), 相澤 隆生・伊東 俊一郎・木村 俊則(サンコーコンサルタント)

「防災・放射性廃棄物」 座長 橋本 励(サンコーコンサルタント)

P-12) 新方式の孔内固着ソールの開発速報

○太田 賢治・飯沼 博幸・小倉 公雄・内山 成和(応用地震計測(株)), 五江 洵(株)ジオファイブ, 今村 杉夫((有)地圏探査技術研究所)

P-13) 弾性波探査によるトンネル地山等級区分の不確実性評価

○長谷川 信介(応用地質), 大津 宏康(京都大学)

P-14) Application of refraction seismic tomography to characterize an ore-dyke body

○Sule Mohammad Rachmat(Teknologi Bandu)

P-15) 花崗岩地域を対象としたウォークアウェイ VSP 探査

○伊東 俊一郎・相澤 隆生・橋本 励・木村 俊則(サンコーコンサルタント), 塚本 齊(産総研)

P-16) インパクト震源とミニバイブレイタ震源の対比

○伊東 俊一郎・相澤 隆生・木村 俊則(サンコーコンサルタント), 山口 和雄・加野 直巳(産総研)

P-17) 交通ノイズを利用した地震波干渉法による S 波探査 その 2-Deconvolution Interferometry の適用-

○木村 俊則・相澤 隆生・伊東 俊一郎(サンコーコンサルタント)

P-18) 花崗岩を対象とした立坑掘削工事振動を利用した物理探査技術の開発-地震波干渉法の適用-

○程塚 保行・松岡 稔幸・鶴田 忠彦(原子力機構), 山田 信人・石垣 孝一・山口 伸治(日本地下探査)

P-19) 花崗岩を対象とした立坑掘削工事振動を利用した物理探査技術の開発-逆 VSP 探査の適用-

○松岡 稔幸・程塚 保行・鶴田 忠彦(原子力機構), 石垣 孝一・山田 信人・山口 伸治(日本地下探査)

P-20) 幌延における弾性定数と間隙率の関係の検討

○安藤 誠(産総研), 小西 千里・東 宏幸(応用地質), 内田 利弘(産総研)

P-21) 幌延沿岸域を対象とした地質環境の調査・評価技術の整備

○山中 義彰・松岡 稔幸・浅森 浩一・太田 久仁雄(独)原子力機構)

P-22) ファンデファーカ海嶺東翼の海底堆積物の熱物性

○後藤 秀作・松林 修(産総研)

「資源探査・電磁」 座長 山根 照真(石油資源開発)

- P-23) 模擬メタンハイドレート試料を用いた弾性波減衰に関する室内実験(その5)-spectral leakage による影響の補正-
○新部 貴夫・松島 潤・鈴木 誠・加藤 倅史(東大・院・工学系)
- P-24) 模擬メタンハイドレート試料を用いた弾性波減衰に関する室内実験(その6) - スウィープ波形を用いた速度分散ならびに減衰解析
○松島 潤・鈴木 誠・加藤 倅史・六川 修一(東大・院・工学研)
- P-25) 音波検層波形データを利用した減衰ログの作成と自己組織化マップの適用
○鈴木 博之・松島 潤(東大・院・工学研)
- P-26) OBS で観測された屈折波へのレシーバー関数解析の適用
○辻本 すばる・尾西 恭亮・三ヶ田 均(京大・院・工)
- P-27) 分散関係式を用いた PS 波分離手法の検討
○岡野 豊・三ヶ田 均・尾西 恭亮(京大・院・工)
- P-28) 3次元没入型地質構造可視化システムの構築
○下野 祐典・高市 和義(CTC)・棚橋 学(産総研)
- P-29) Numerical study of anisotropy parameter determination using seismic P-wave diffraction in vertical transverse isotropic media
○Ronoatmojo Imam Setiaji・Santoso Djoko・Sanny Teuku Abdullah・Fatkhah Fatkhah・Alfian Bahar・Poerwaka Loektamadji Arief(Bandung Institutu)
- P-30) Estimation of Anisotropy Parameters in VTI Medium using the Propagation Time of the Reflected Seismic Waves
○Setianingsih Setianingsih・Djoko Santoso・Fatkhah Fatkhah・Doddy Abdassah(Bandung Institutu)
- P-31) 海洋および沿岸域における電気・電磁探査法適用に向けた数値モデリング技術の開発
○上田 匠・光畑 裕司・内田 利弘(産業技術総合研究所)
- P-32) 東海沖で取得された海底 MT データの解析と地形の3次元性の検討
○坂田 玄輝(京大・院・工)・後藤 忠徳・笠谷 貴史・木下 正高(海洋研究開発機構)・尾西 恭亮・三ヶ田 均(京大・院・工)
- P-33) 土被りの大きなトンネルの地質評価における電磁探査法の適用性に関する検討~空中電磁法・CSAMT 法・両手法の組み合わせによる推定地質の検証~
○岡崎 健治・伊東 佳彦・日外 勝仁((独)寒地土研)

「電気・電磁・磁気・重力」 座長 窪田 健二(電中研)

- P-34) 空中物理探査データから推定される岩手火山の浅部地下構造
○大熊 茂雄・中塚 正・森尻 理恵・高倉 伸一(産総研)
- P-35) Monitoring and simulating 4D microgravity data in reservoir fluid flows, Case study of SS oilfield, Central Sumatra, Indonesia
○Alawiyah Susanti・Djoko Santoso・Wawan Gunawan A.Kadir・Darharta Dahrin(Bandung Institutu)
- P-36) 電磁法による不発弾探査の基礎実験
○水永 秀樹・田中 俊昭(九州大学)・池田 直継((株)TRES)・下山 久満((株)神戸製鋼所)
- P-37) 海中・海底の電磁波伝播とその応用
○吉田 弘(海洋研究開発機構)
- P-38) Streamer resistivity survey to evaluate hydrogeological sequences at the bottom of shallow blackish reservoir
○宋 成鎬・Gyu-Sang Lee・Mi-Kyung Kang・Young-In Kim・Yang-Bin Kim(Rural Research)・In-Ky Cho(Kangwon Nationa)
- P-39) 比抵抗法3次元解析における2次元電気探査測線の合理的な配置の数値的検討
○井上 敬資・中里 裕臣(農研機構)・竹内 睦雄(探査環境技術事務所)・杉本 芳博(ダイヤコンサルタント)・金 喜俊(韓国釜慶大学)
- P-40) Feasibility study of ERT for evaluation of CO2 geological sequestration
○朴 三奎・Kim Jung Ho(韓国地質資源研究院)
- P-41) 高密度3次元電気探査とダイレクトブッシュ技術を用いた油汚染地区の探査
○神宮司 元治・横田 俊之・光畑 裕司・内田 利弘(産総研)
- P-42) 石油関連施設跡地における三次元地中レーダ探査適用研究
○横田 俊之・神宮司 元治・中島 善人・光畑 裕司・内田 利弘・駒井 武(産総研)
- P-43) High Resolution 3D GPR Applied to Archaeology for Characterizing Accurate Subsurface Structure
○アブドウル マオゴド マハムド ガバラ(Tohoku Univ.)・Mark Grasmueck(Miami Univ.)・Motoyuki Sato(Tohoku Univ.)
- P-44) A full-waveform inversion algorithm for interpreting GPR interferograms
○黒田 清一郎(農研機構 農工研)・金 喜俊(韓国国立釜慶大学)・Lee Ki Ha(LBNL)・竹内 睦雄(農研機構 農工研)

「発表者の方へ」

●ポスター発表全般の注意事項

- ◆ ポスターの掲示期間は、10月21日9:30～10月23日13:40です。できる限り、期間の最後までポスターを掲示してください。
- ◆ 発表者の方は、ポスターセッションコアタイム(10月21日15:00～16:00)に必ず参加してください。参加できない場合は、代理人を立ててください。
- ◆ ポスターセッションコアタイムでは、座長の指示のもとで短時間での説明をしていただきます。
- ◆ コアタイムの他に、22日、23日の13:00～13:40にポスターセッションの時間を設けます。22日、23日のポスターセッションでの会場説明にご協力をお願いいたします。
- ◆ ポスターパネルサイズは、1.2m(横)×1.8m(縦)の縦長です。
- ◆ 10月23日14:00以降、掲示されているポスターは、学会にて撤去・破棄させていただきます。ご了承下さい。

「学術講演会優秀発表賞について」

若手会員による研究を促進し、その成果を学術講演会で積極的に発表していただき、学会全体の活性化につなげることを目的として、平成18年度から学術講演会優秀発表賞の授与が行われています。対象者は、平成20年度からは35歳以下の若手発表者(個人会員)とし、口頭発表とポスター発表のなかで優秀な研究発表を行った発表者(登壇者)に、それぞれ優秀講演賞と優秀ポスター賞を授与します。審査は座長と学術講演委員会が行い、学術講演会終了後、学術講演委員会が審査結果をとりまとめ受賞者を決定します。

[案内図:タワーホール船堀]

